



令和 2 年度
コミュニティソーシャルワーカー
(CSW)
活動報告書

令和 3 年 9 月

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会

地域福祉課 地域総務係 地域共生社会推進事業担当



はじめに

急速な高齢化や地域での人と人とのつながりの希薄化をはじめとした社会状況の変化等により、解決が難しい個別の課題が地域に生まれ、様々な福祉課題を抱える方が増加しています。

これらの課題に対応するには、これまで小地域福祉ネットワーク活動を通じて構築したネットワーク体制等を基盤に、地域の課題を早期に発見し、必要なサービスにつなぐといった機能の充実・強化を改めて図る必要があります。

そこで、狛江市社会福祉協議会では、住民の地域福祉活動等を支援するためのコーディネート役として、コミュニティソーシャルワーカーを一定の地区ごとに段階的に配置していくこととなり、平成 30 年 4 月からあいとぴあエリア(中和泉・西和泉・元和泉・東和泉)に 1 名の配置を、令和 2 年 4 月からはこまえ苑エリア(岩戸南・岩戸北・猪方・駒井町)に 1 名の配置を行いました。

コミュニティソーシャルワーカーはアウトリーチを主としたアプローチにより、地域の福祉課題やニーズを発見し、地域住民・組織や関係機関と協力しながら、解決に向けた支援を行うとともに、地域における支えあいの仕組みづくりや地域での生活を支えるネットワーク作りを行う役割を担っています。

本報告書では配置 3 年目となった令和 2 年度の活動をまとめましたので、ぜひご覧ください。

目次

1.コミュニティソーシャルワーカーとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

- コミュニティソーシャルワーカーの 3 つの役割
- 配置スケジュール
- コミュニティソーシャルワーカーの支援のイメージ

2.個別支援、地域支援の取組み実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

- 相談内容の割合の推移（3 か月ごと）
- 個別相談の内容別件数
- 関係機関との連携件数
- 個別支援 エリア別対応数
- 地域支援 エリア別対応数
- 個別支援の主な内容
- 地域支援の主な内容

3.個別支援の事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

- 事例① 30 年以上自宅でひきこもっている 50 代男性への支援
- 事例② コロナ禍で居場所がなくなった 20 代知的障がい男性への支援

4.地域支援の事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

- あいとぴあエリア地域支援事例①元和泉で活用されていない一戸建てを拠点とした地域の居場所づくり
- こまえ苑エリア地域支援事例①シニアのちょっとした困りごとに対応する仕組み「Care&Cure」
- こまえ苑エリア地域支援事例②岩戸・猪方・駒井町地域情報誌「いこいの便り」の発行
- 市内全域地域支援事例 ランドセルバンクの実施

5.コミュニティソーシャルワーカーがかかわるその他の事業・・・・・・・・・・15

- 福祉カレッジの開催
- 福祉のまちづくり委員会(仮称)の設置

6.おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

1.コミュニティソーシャルワーカーとは

●コミュニティソーシャルワーカーの3つの役割

① 個別支援

公的なサービスや地域の支援だけでは解決しきれないニーズや課題を受け止め、対象者に寄り添いながら、解決に向けた支援を行います。

② 地域支援

地域の関係機関や団体等との連携・協力とそのネットワーク化を図りながら、地域の課題解決力を向上させます。

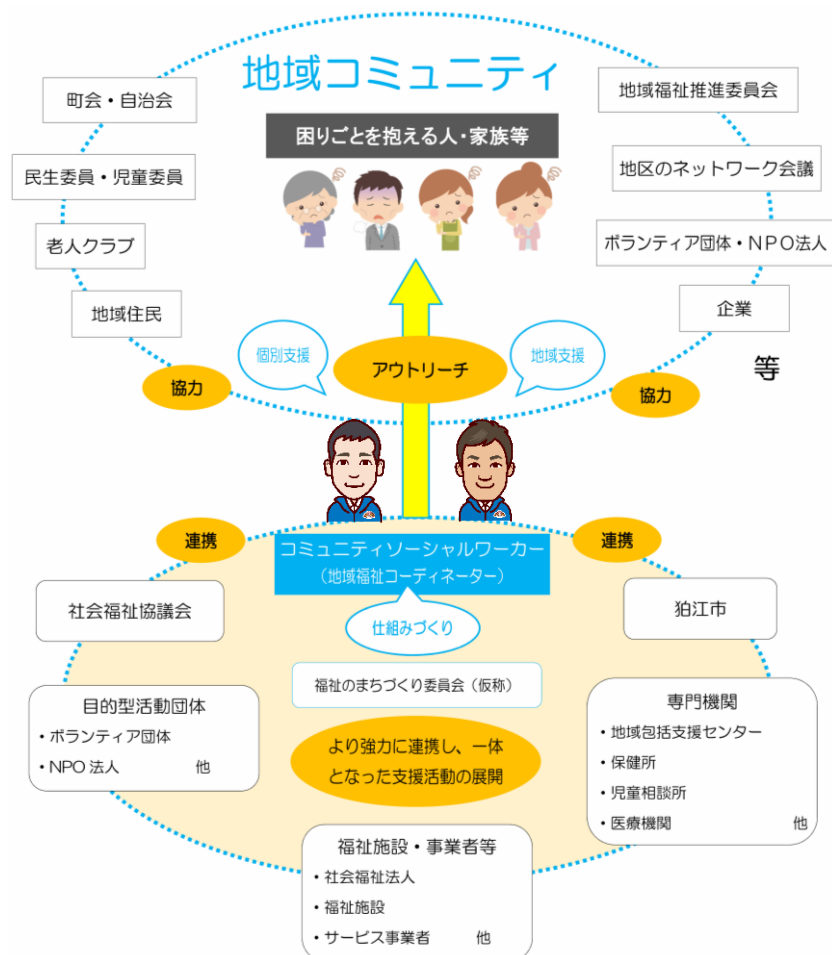
③ 仕組みづくり

個別支援、地域支援を行いながら、支援を通じて蓄積された情報やノウハウを基に、新たなサービスの提案や仕組みづくりを行います。

●配置スケジュール

年度	取組みの目標
2018年度 (平成30年度)	モデル地区を1地区設け、コミュニティソーシャルワーカーを1名配置した。 ※あいとびあエリア
2020年度 (令和2年度)	地区を1地区増やし、コミュニティソーシャルワーカーを1名配置した。 ※こまえ苑エリア 2つの地区に1名ずつの体制となる。
2022年度予定 (令和4年度)	地区を1地区増やし、コミュニティソーシャルワーカーを1名配置する。 ※こまえ正吉苑エリア 3つの地区に1名ずつの体制となる。

●コミュニティソーシャルワーカーの支援のイメージ



コミュニティソーシャルワーカーの配置体制の目標（2022年度）



・あいとびあエリア…中和泉、西和泉、元和泉、東和泉

・こまえ正吉苑エリア…和泉本町、東野川、西野川

・こまえ苑エリア…岩戸南、岩戸北、猪方、駒井町

（地域包括支援センターの圏域と同様の日常生活圏域を用いています）

2. 個別支援、地域支援の取組み実績

配置3年目の取組みは、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、従来実施していたようなアウトリーチ活動が困難になりましたが、新たに2エリア2名体制となり、支援の対応回数は大幅に増加しました。

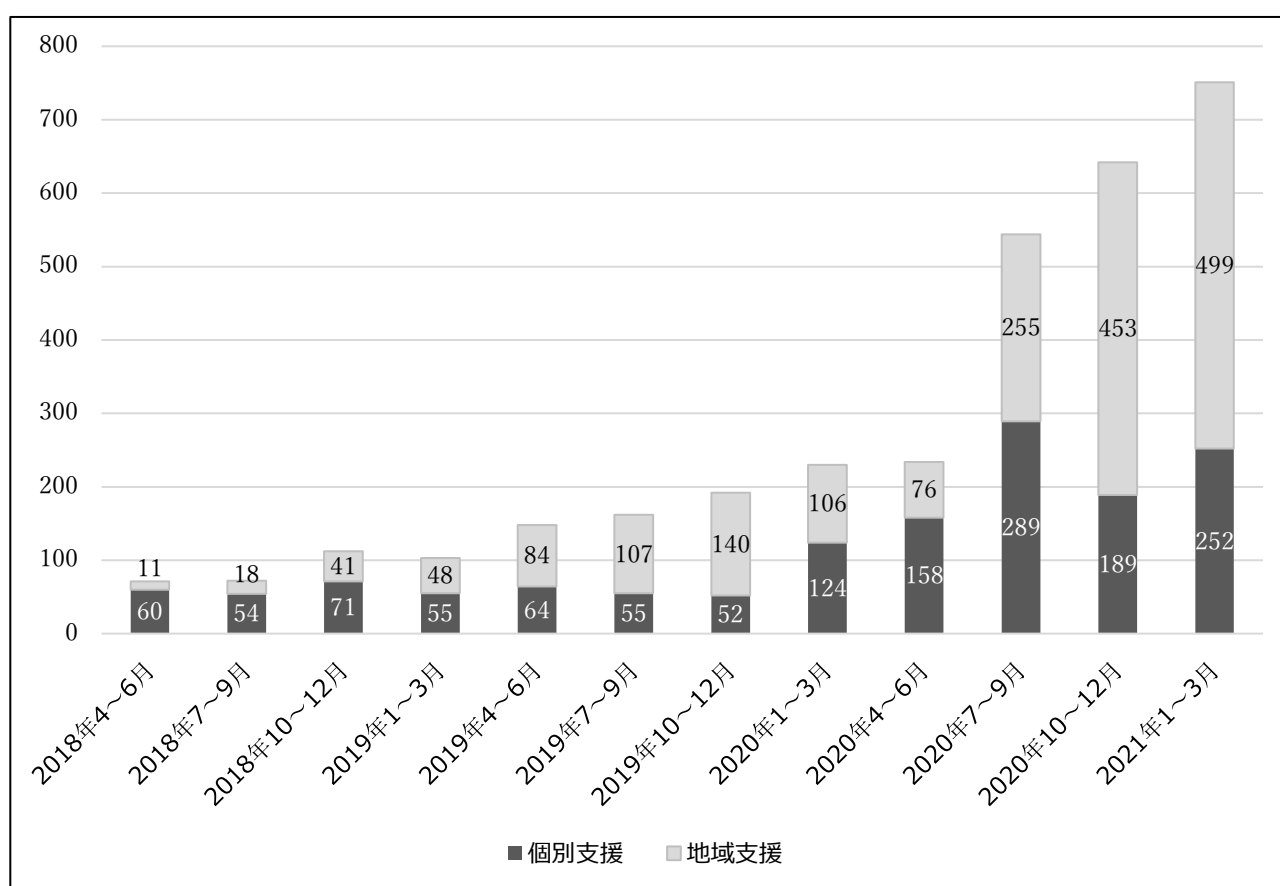
令和2年度の個別支援の相談対応実数は86名、延べ888件(平成31年度は68名延べ294件)、地域支援の相談対応実数は27件、延べ1,187件(平成31年度は21件、延べ437件)でした。

あいとぴあエリアでは、前年度からの支援継続者を含め、38名 513件の対応(1人当たり平均13.5件)を行いました。新たに配置したこまえ苑エリアでは、20名 89件(1人当たり平均4.45件)の対応を行いました。

あいとぴあエリアの地域支援ではよしこさん家に関する支援が多く、こまえ苑エリアではシニア向けの地域情報誌いこいの便りの発行や、就労支援事業所と連携した有償お手伝いサービスCare&Cureなど新たな取り組みが生まれました。

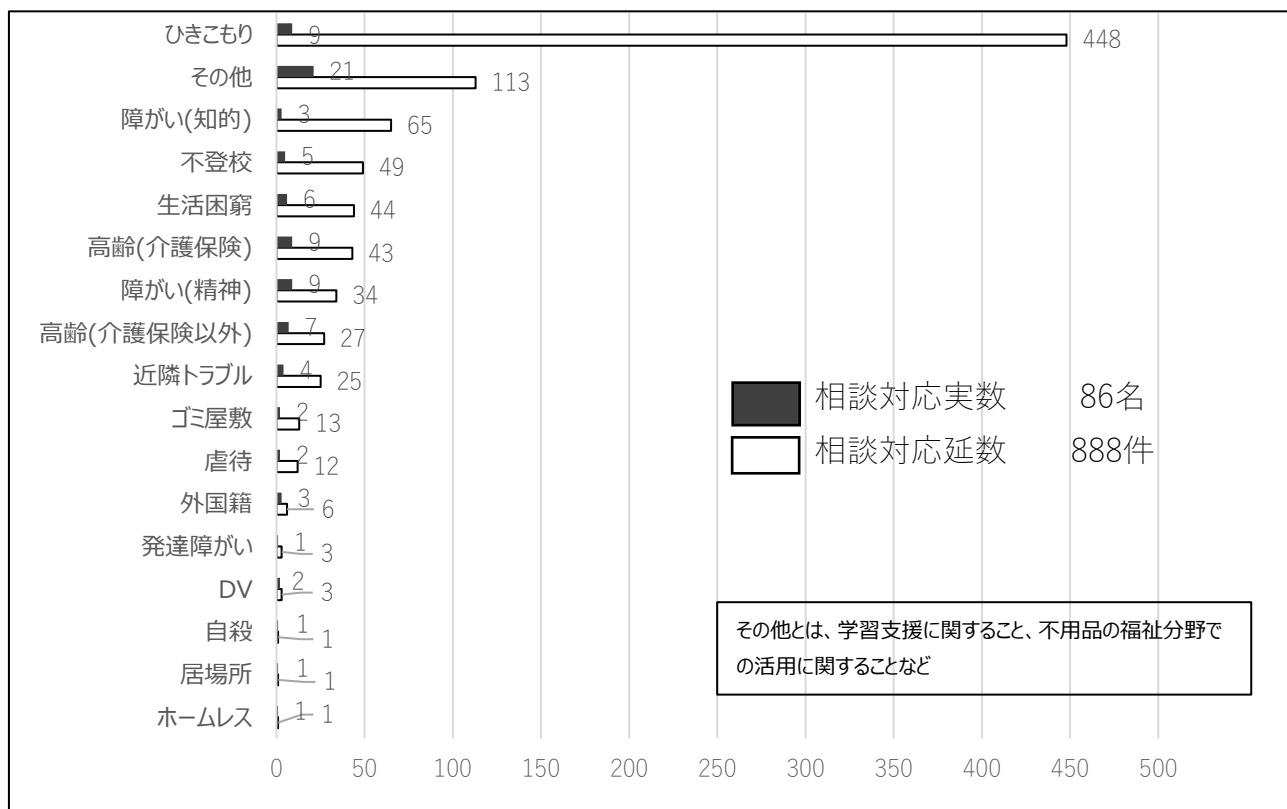
【個別支援・地域支援】 相談内容の割合の推移(3か月ごと)

2018.4.1～2021.3.31 (単位:件)



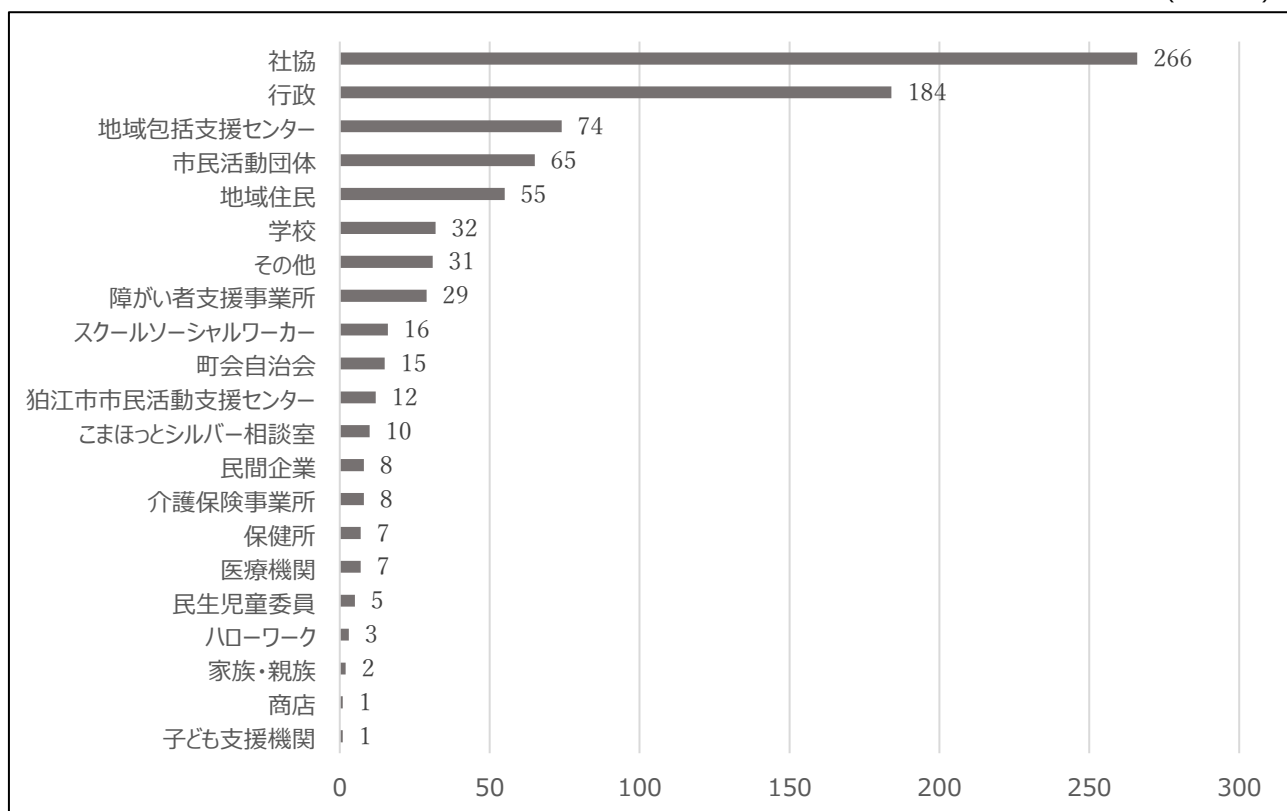
【個別支援】 相談の内容別件数

2020.4.1～2021.3.31 (単位：件)



【個別支援】 関係機関との連携件数

2020.4.1～2021.3.31 (単位：件)



※連携数は延べ数のため、1回の支援で複数の連携をしている場合もある。

※社協とは、狛江市社会福祉協議会のサポート、生活支援資金等の貸付、笑顔サービス、小地域福祉活動担当等との連携数。(あいとびあ地域包括支援センターは他項目にカウントしているため除いている)。他自治体の社会福祉協議会との連携も含む。

※障がい者支援事業所は、狛江市社会福祉協議会のサポートを除く支援機関との連携数。

※行政とは、狛江市役所の各部署、東京都など。

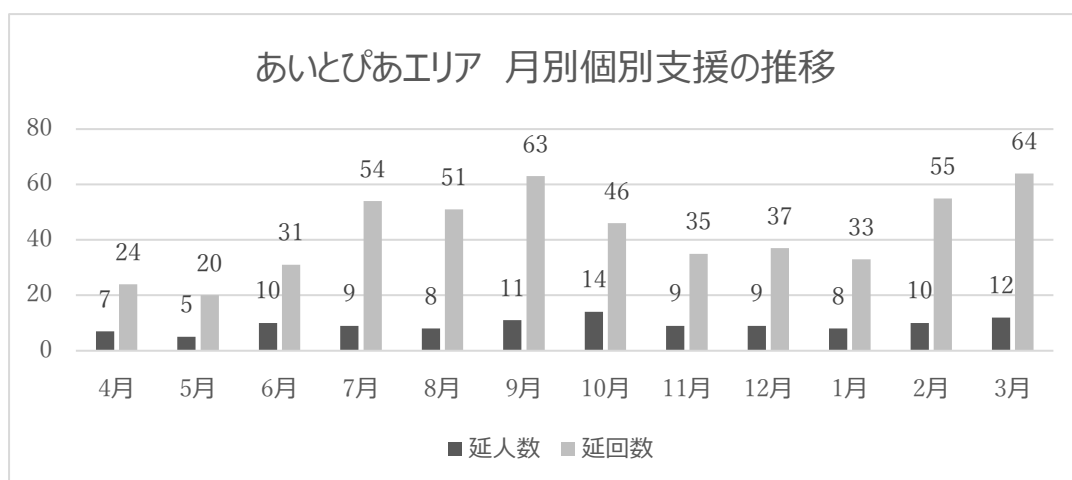
※関係機関と連携のなかった相談件数は 57 件あり。

【個別支援】エリア別対応数

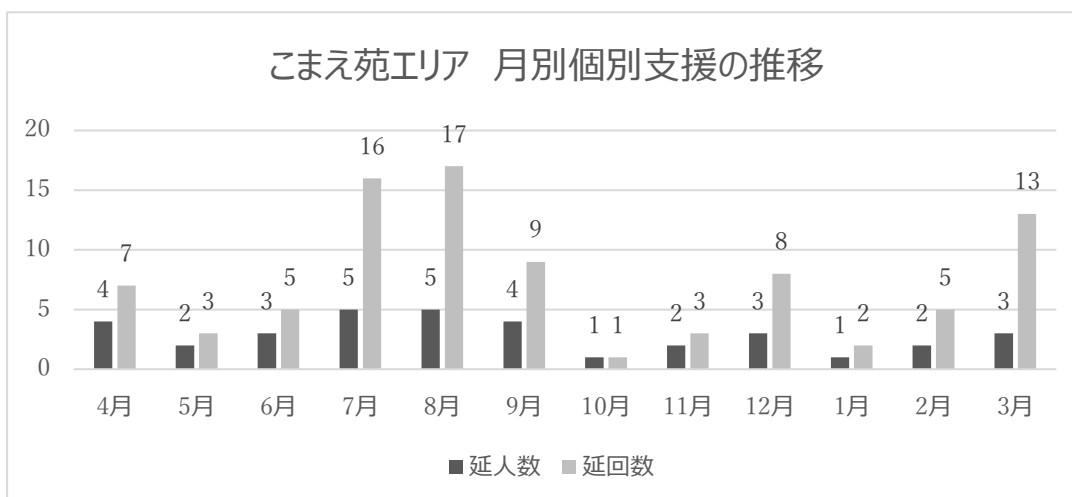
あいとぴあエリア 38名 513回（1人当たり平均13.5回）

こまえ苑エリア 20名 89回（1人当たり平均4.45回）

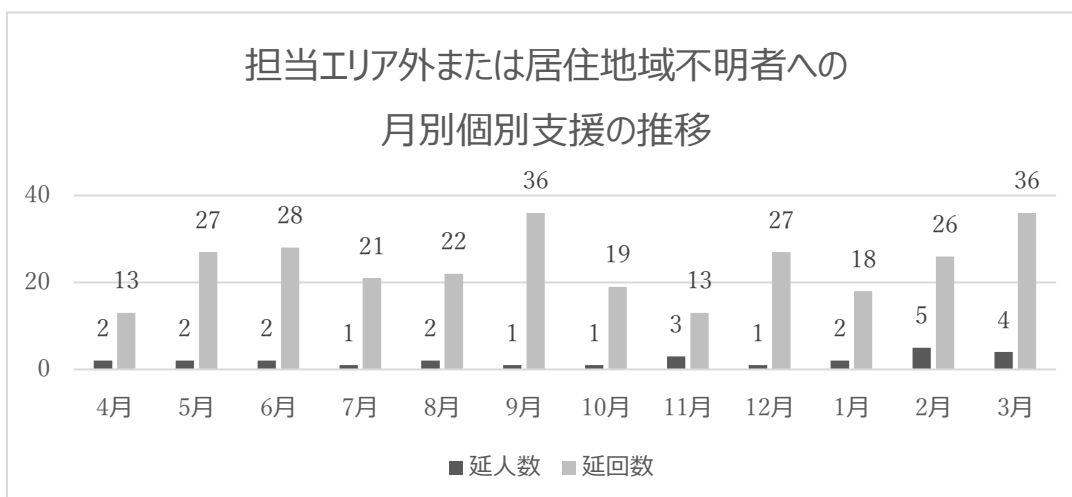
(単位：件)



(単位：件)



(単位：件)



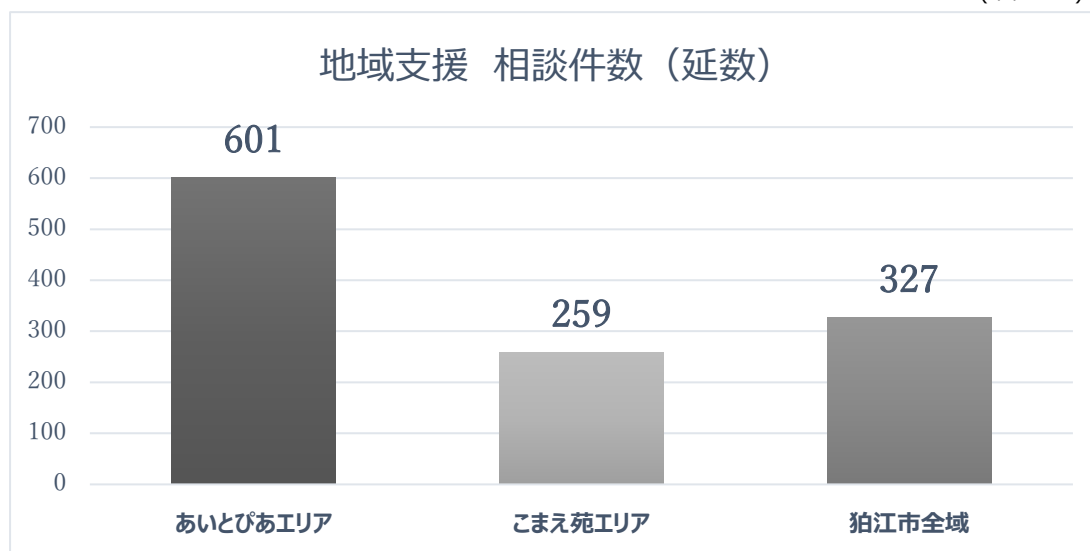
【地域支援】エリア別対応数

あいとぴあエリア 4件 601回（延回数）

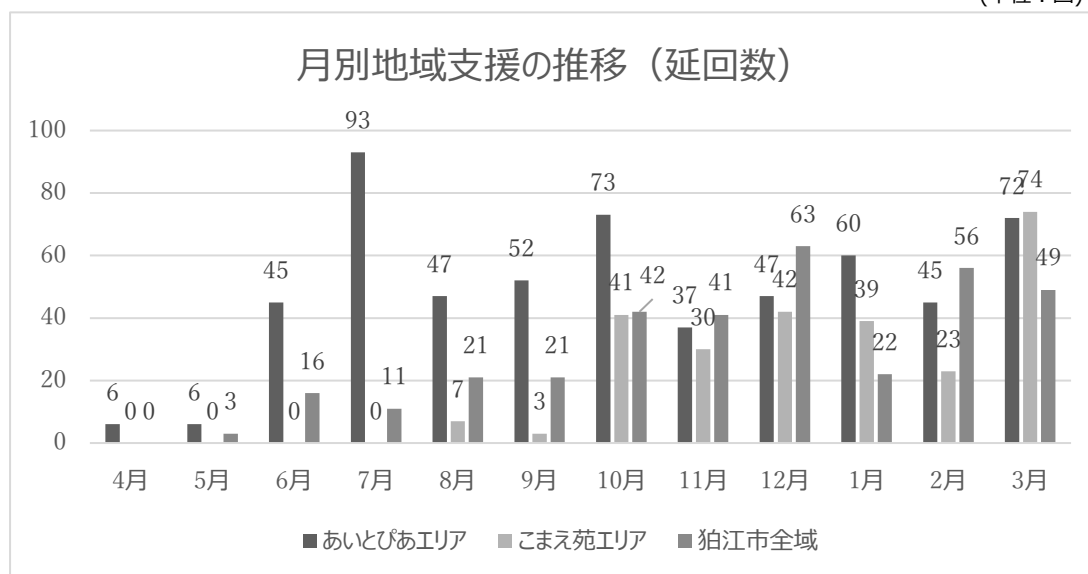
こまえ苑エリア 3件 259回（延回数）

全市的取り組み 16件 327回（延回数）

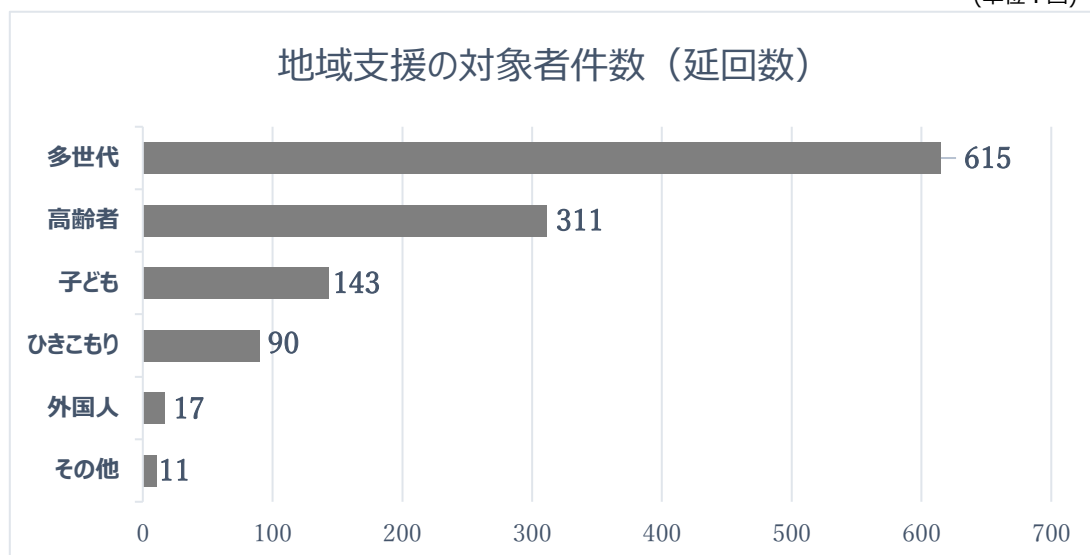
（単位：回）



（単位：回）



（単位：回）



【個別支援の主な内容】

【高齢】

- ・(地域住民から)よく道に迷っている高齢女性が近くにいる心配なので対応してほしい
- ・(地域住民から)最近奥様を亡くされて、落ち込んでいる様子のご主人が心配なので気にかけてほしい
- ・(支援者から)高齢になり自宅の庭の手入れが出来なくなっている方がいるので助けてほしい

【障がい】

- ・(家族から)就労支援事業所に通う知的障がいのある方が、仕事以外に人と交流できたり余暇を楽しめる場を知りたい
- ・(当事者から)親なきあとのことが不安なので相談に乗ってほしい

【子ども】

- ・(支援者から)中学3年生で支援している登校渋りの生徒が、今後高校進学に伴い気がかりなので一緒にかかわってほしい
- ・(地域住民から)子どもが地域で勉強できる場所を教えて欲しい

【その他】

- ・(地域住民から)近所にゴミが散乱し、夜間にも大きな音を出すお宅があり心配
- ・(地域住民から)隣家の樹木が伸びていて困っている
- ・(家族から)身内に長期就労ブランクがある者がおり仕事や生活の手助けをしてほしい
- ・(支援者から)80歳台の母親の支援者だが、ひきこもり状態の息子さんが孤立しているので一緒に関わってほしい
- ・(ひきこもり当事者から)親なきあとの不安があり相談に乗ってほしい
- ・(地域住民から)自宅の前に不法投棄されているものがあり困っている
- ・(地域住民から)電磁波過敏に悩まされ、体調や生活面で困っている人が居るので助けてほしい

【地域支援の主な内容】

【多世代】

- ・多世代の集う居場所づくりの活動支援
- ・ひきこもり支援のための新たなネットワークの構築
- ・ひきこもり家族会の支援、新たな活動の場の立ち上げ(かめのよりみち)

【高齢】

- ・こまえ苑エリアの地域情報誌の作成(いこいの便り)

【子ども】

- ・市内の学習支援団体を集めた学習支援マップの作成
- ・学習支援団体と連携した新しい学習の場づくり
- ・PTAと連携したランドセルのリユース企画(ランドセルバンク 2021-22)

【障がい】

- ・就労支援事業所と連携した有償お手伝いサービスの立ち上げ(Care&Cure)

【外国人】

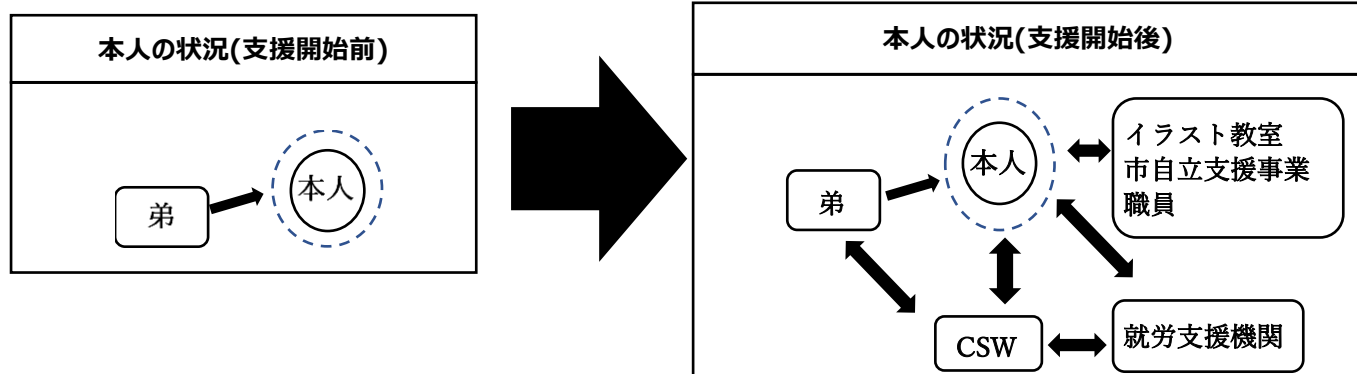
- ・教育機関と連携した日本語がわからない外国人への対応

3.個別支援の事例

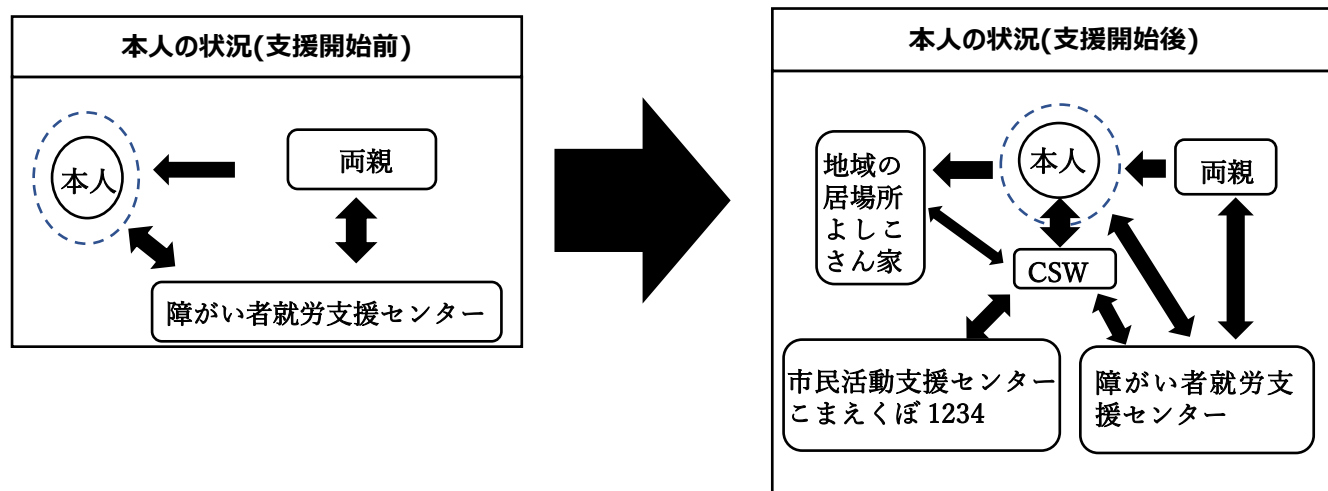
個別支援 事例① 30 年以上自宅でひきこもっている 50 代男性への支援

※実際の事例を一部加工しています
※CSW=コミュニティソーシャルワーカーの略です

相談内容
30 年以上ひきこもっている兄をなんとか社会復帰させたいという相談が CSW にあった。ひきこもっているご本人(以下、A 氏)は現在 50 代。実家の集合住宅に現在一人暮らしをしている。親族は弟と 80 代の父親が高齢者施設に入所しており、母親はすでに他界している。 A 氏は大学を卒業後、就職をするも人間関係のトラブルにより 3 か月ほどで退職。その後転職した別の会社でも職場内の人間関係がうまく築けず、1 か月ほどで退職。その後はアルバイトを転々とするが、どこも長続きはしなかった。以降職に就くことはなく、30 年以上実家にひきこもった生活を続けている。現在は、近くに住んでいる弟の支援と両親が残した財産を取り崩しながら生活をしている。買い物に行くなど最低限の日常生活はできるが、人間関係の失敗から他人に対して心を閉ざしており、弟以外の人とはほとんど接点が無い状態であった。
支援のポイント
A 氏は他人に対してあまり心を開こうとせず、人間関係をうまく築けないこと、仕事に長くブランクがあることなど、自身の現在の状況に負い目を感じている。そのため、まずは A 氏の信頼を得るため定期的な訪問に努め、コミュニケーションを多くとることで A 氏の人柄や興味のあることなどを知り、信頼関係の構築に努めた。また、長らく社会との接点が無かったことから、趣味やボランティアなど本人が興味のあることから参加できる場を見つけ出し、社会との接点を持てるよう少しずつ A 氏のペースに合わせた支援を行うことに注力をした。
支援内容
支援開始当初、A 氏は自己肯定感が低く、会うたびに悲観的な発言を繰り返している様子だったが、CSW が自宅訪問を繰り返すなかで、A 氏の趣味が漫画やアニメを見ることや、漫画の絵を描くことが好きであることを知った。そこで市の自立相談支援事業を行う部署が開催しているイラスト教室があり A 氏に参加を呼び掛けると、始めのうちは渋っていたものの、何度か誘致をしていくと行ってみてもよいという発言もあり参加することができた。教室に参加することで、イラスト教室を担当している自立相談支援事業の担当者とも関係性が構築でき、徐々に表情が柔らかくなっていった。また、教室に参加している方とも少しではあるが会話ができるようになっていった。やがて本人から「あまり人と接しない仕事ならできるかもしれない」と前向きな発言が出るようになった。 その後、自立相談支援事業の担当者から就労準備支援についての話が CSW へ入る。A 氏と自立相談支援事業の担当者と CSW で話し、まずは体験就労という形で仕事を始め、徐々に社会復帰をする道筋をたてることになった。 しかし新型コロナウイルス感染症の拡大により、体験就労の受入れ先だった企業の協力が難しくなり、計画は中断してしまう。イラスト教室も中止となり外出の機会もなくなったことから、一時期 A 氏はふさぎこんでしまうこともあったが、CSW が訪問を繰り返すことで、徐々に気持ちも回復し、再び就労に向けて動き出したいという発言が出るようになった。新たに CSW が公的な就労支援機関への訪問を提案。行ってみてもよいと A 氏から発言があり、同行して訪問することができるようになる。新たに就労支援機関で A 氏自身が望む職業などもヒアリングや自身にあった職業などカウンセリングを行うこともでき、今後の就労へ向けて再び、準備を行っている。
今後の方向性
今後は継続的に就労支援機関へ行くことにより、仕事への適性や要望も考慮し求人情報などを見定めていく。自立相談支援事業の職員とも連携を取り合い、再び体験就労の機会ができた場合なども視野に入れつつ、本人の望む条件の就労、社会復帰へ向けて無理のない支援を行ってきたい。



相談内容
「知的障がいのある 20 代の男性（以下 B 氏）が、自宅で手持無沙汰で何もすることが無く、ストレスが溜まってしまふ。どこか家以外の場所で何かできることはないか。」と両親から相談が入る。B 氏はもともと就労支援事業所に通所予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で受け入れが中断してしまう。そのため現在は家で何もやることもなく手持無沙汰でいる。B 氏は何もすることが無く家にいるとイライラしてストレスが溜まってしまふ状態で、両親が困り果てているとのことだった。
支援のポイント
すでに B 氏と関りのある障がい者就労支援センターの担当者から B 氏の情報を収集した。B 氏の性格は口数が少なく大人しい性格で、黙々と作業を行うことが好きである。音に敏感で多くの人が集まる場は苦手であるということから、少人数もしくは一人で行える作業が特性に合っており、遠出は本人が不安になってしまうこともあることから、作業の場所ではできるかぎり徒歩で通える立地にある場所を探す必要があった。
支援内容
障がい者就労支援センターの担当者からの情報として、B 氏は手先が器用で手芸や切り絵など物を作ったりする作業が好きとの情報を得た。 市民活動支援センターこまえくぼ 1234 から、市民から寄付していただいた古切手を切って整えたり、種類の仕分けを行うボランティア活動が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、古切手が溜まっている状態との情報を得たことから、切手を切る作業や仕分けの作業を提案した。 作業を行う場所としては B 氏の自宅近くにある、多世代が集う地域の居場所づくり活動を行っている「よしこさん家」を活用することとなった。よしこさん家の管理者とも話し合い、慣れない場で本人が一人で取り組むことが少し不安な様子もあることから、よしこさん家の管理者の方も一緒になって作業を手伝うことになった。管理者も、もともと障がい者支援に携わっていたことから、B 氏ともすぐに打ち解け、安心した環境下で活動を行うことができた。切手を切る作業以外にも切り絵やビーズを使った手芸なども行い有意義な時間を過ごすことができるようになった。
今後の方向性
現在は通所予定であった就労支援事業所も再開し、仕事の休みの日に切手作業をボランティアとして行っている。新しい居場所ができたことで B 氏も精神的に安定し、切手作業だけでなく手芸で作った作品を両親に見せて喜んでいる。当初より訪れる回数は少なくなったものの、本人の居心地の良い場として今後も使用してもらい、ストレスの少ない生活ができるよう支援をしていきたい。



4.地域支援の事例

【あいとぴあエリア地域支援事例①】 元和泉で活用されていない一戸建てを拠点とした地域の居場所づくり

支援の内容・経過

元和泉の一軒家で主に高齢者向けの相談や居場所の活動が新たに立ち上がったとの情報を得て、令和元年5月に生活支援コーディネーターとCSWで視察を行った。その際に実施場所の提供者であるM氏から「社会福祉協議会の方でこの場を地域の方のためにうまく活用してほしい。ここには以前姉が住んでいたが、事情があり住めなくなった。お世話になった地域の人たちに役立てていただければ」という相談があった。その後、市民活動支援センターこまえくぼ1234の職員とM氏と打ち合わせを重ね、誰でも気軽に立ち寄れる居場所「よしこさん家」を目指すこととなる。

令和元年9月から本格コーヒーを楽しみながら地域住民が集うことができる「ポプラ喫茶室」を開催。また、地域で孤立しがちな子育て世帯でも気軽に立ち寄れる場として絵本の読み聞かせを行う「ゆったり絵本の会」を月1回ずつ定期開催し、多くの地域の方々が訪れ、認知されるようになった。

令和2年2月から新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中断することになったが、6月から感染症対策を行いつつ活動を再開。仕事や勉強、読書や手芸などの趣味と様々な利用ができる「フリースペース」を中核に、コロナ禍で外出が難しく、会話をしたくてもできない方に向けた電話で世間話を楽しめる「おばあちゃんと話そう」、子育て世帯が気軽に集まれる居場所「あかちゃんのわ」、「ゆったり絵本の会」が屋外で紙芝居や絵本の読み聞かせを行う「青空かみしばい」、子どもから大人まで絵本の読み聞かせや語り等を行う「粕江はなしの会くすけ」、その他、中学生の学期末試験の勉強の場として「学習フリースペース」など地域の方々に向けた様々な企画を各活動団体・者が実施してきた。

同じく市内で多世代が集う地域の居場所として活動をしている団体「comarch(こまち)」と協同して、居場所に訪れた方がコロナ禍で元気を失っている地域の方々に向けて、メッセージや絵をポストカードに書いてもらう取り組み「よしこさん家とcomarch(こまち)から発信！ 想いをつなげる∞プロジェクト」を行った。メッセージや絵の書かれたポストカードは、ポスター状にして市内の公共施設、高齢者施設などに掲示した他、カードをポケットティッシュに入れて配布をした。

感染症拡大の影響により、中断を余儀なくされてきたひきこもり・不登校の家族会も令和3年2月から「よしこさん家」で新たにリニューアルし「かめのよりみち」という名前で再開をすることとなった。以前の使用していた公共施設の会場に比べ、より柔らかい雰囲気の中で行う事ができ、新たな交流の場となっている。

また、活動団体・者とは年に2回、懇親会なども開き、地域に向けてどのような活動ができるか、団体間の紹介や連携、よしこさん家が地域の拠点としての役割を担えるよう話し合いを行っている。

CSWがよしこさん家に関わる中で、地域の方々のニーズについて管理者や活動団体・者と連携を図り柔軟に対応を行ってきた。活動団体・者からは緊急事態宣言発令後、公共施設での活動が制限されたことにより、よしこさん家を使用したという要望が増え、活動の場を守るセーフティとしての役割も担ってきた。また、個人の方からはコロナ禍でどこも行く場所がなくなってしまったという声に対して、開かれた場として役割を果たした。近隣の介護施設や作業所、同じく居場所活動を行っている活動団体・者とも連携し、地域の方の応援の声を多くの場に届け、発信の役割も担ってきた。CSWとして「よしこさん家」に関わることで、地域の拠点としての役割、地域の団体を繋げること、コロナ禍での活動の場や行き場所を守る役割に努めてきた。

活動の経緯【令和元年5月～令和3年3月】

令和元年

●5月

・元和泉の一軒家で主に高齢者向けの相談や居場所の活動をおこなっていたM氏より一軒家を地域に役立てたいと相談を受ける。

●6月～8月

・M氏、市民活動支援センターこまえくぼ1234、生活支援コーディネーター、CSWと活用方法について複数回打ち合わせを行う。誰でも気軽に立ち寄れる居場所を目指し活動を行う。

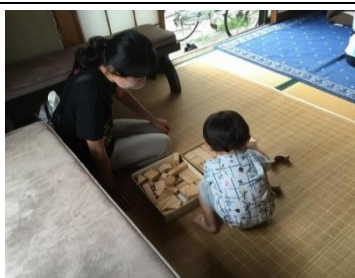
●9月

・「ポプラ喫茶室」、「ゆったり絵本の会」実施 ※令和2年2月まで定期開催

●12月

・活動団体・者による大掃除・懇親会 実施

令和2年	●2月～5月 ・新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため全活動を一時中断 ●6月 ・活動を再開 ・「フリースペース」、「マスクと本のおゆずり処」 実施 ※以後、定期開催 ●7月 ・「おばあちゃんと話そう」、「青空かみしばい」、「赤ちゃん広場“あかちゃんのわ”」 実施 ※以後、定期開催 ●11月 ・「狛江おはなしの会くーすけ」 実施 ※以後、定期開催 ・「ふまねっと運動体験会」、「よしこさん家と comarch(こまち)から発信！想いをつなげる∞プロジェクト」 実施		
令和3年	●2月 ・「こまえ家族会 かめのよりみち」 実施 ※以後、定期開催 ・「学習フリースペース」 実施		
実績			
利用者数 241 名（延べ）	企画開催数 92 回（延べ）	活動団体・者数 5 団体・2 名	
今後の方向性・課題			
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、順調に進んでいた活動も停滞してしまう期間もあったが、地道な活動の結果、「よしこさん家」で活動を行いたいという活動団体・者も増え、あかちゃんから高齢者まで利用できる多世代が集う居場所として徐々にではあるが地域の方々に認知をされてきている。 今後は活動団体・者間の横の結びつきを深め、連携し合いながら長きに渡りよしこさん家を支えていくため、運営に関する仕組みづくりをM氏や活動団体・者、CSW で協議をしながら構築する必要がある。CSW としてはこれまで立ち上げから主として協力をしてきた運営面などを、徐々に市民団体に担っていただき、地域の居場所としての発展を見守っていく立場へと回っていきたい。 今後も創意工夫を重ね、「誰でも気軽に立ち寄れる居場所」というコンセプトに即した、地域の拠点としての役割を担えるよう協力をしていきたい。			



【こまえ苑エリア地域支援事例①】シニアのちょっとした困りごとに対応する仕組み「Care&Cure」

支援の内容・経過

CSW のもとに「高齢者のちょっとした困りごとに対応できる仕組みが無いだろうか…」という要望の声があり、地域の中で仕組みが作れないかと模索していた。

2020 年 9 月 就労継続支援 B 型事業所の支援員の方と情報交換をしている際に「CSW では高齢者のちょっとした困りごとに対応できる仕組みの不足について課題と考えており、解消する手段が無い悩んでいる」という話したところ、「私たちの就労支援の中で実現できないか考えさせてください」との前向きな言葉をいただいた。

当時この就労継続支援 B 型事業所では、新型コロナウイルス感染症の影響により、受注していた作業の依頼減少のほか、事業所内で利用者の密を避けるために屋外（事業所の外）での仕事を進めていく必要性があり、障がいのある方の新たな就労支援の形の 1 つとして模索している状況であった。打ち合わせを重ね、就労支援の一環として職員と利用者がペアになりこの取り組みを進めていく事となった。

取り組む内容を検討していく中で、狛江市の高齢者の課題を検証したところ、1.8050 問題、2.孤独死問題、3.ジャングル化問題、4.空き家の課題について取り組む必要性を感じ、狛江市まちづくり推進課や地域包括支援センターこまえ苑等との情報交換を経て、以下の支援内容を実施することにした。

サービス内容① お助けさん（300 円～/15 分）

サービス内容② お助けさんプラス（500 円～/15 分）

サービス内容③ あんしん見守り訪問（300 円～/1 訪問）

サービス内容④ 空き家定期メンテナンス（1,000 円/訪問）

実施エリアの民生児童委員、ケアマネージャー、町会等にも周知を図り、令和 3 年 3 月～地域を限定して試行することとなった。

初期の依頼内容としては、「庭の木を剪定してほしい」「雑草を抜いてほしい」「花壇の花を植え替えてほしい」「ベランダの植木鉢の土を処分してほしいにしたい」というような内容だった。

サービス利用者(高齢者)の声

- 一人では難しいことも、来てくれる人と一緒に重たい腰が上った
- 若い人たちが来てくれて嬉しい
- これからも定期的にお願ひしたい

サービス提供者(障がい者)の声

- はじめて自分たちがやったことで、目の前でお金をいただけた
- 人の役に立てたことがうれしい
- 思っていたより仕事が楽しかった
- 気分転換になる

今後の方向性・課題

就労支援の一環で訪問支援を行う障がい者にとっては、困っている高齢者の役に立つことでの達成感が得られたり、人のかかわり方を習得することが期待される。一方でサービスの利用者である高齢者においては、単に困っていることを手助けしてもらうだけでなく、障がいに対する理解が深まることも期待している。あまり高齢者障がい者というくくりで見るのではなく、お互いの理解を深め、地域でともに生きる仲間という意識が広がることを目指している。

現在は一部エリアに限定して試験的に実施しているが、今後は実施エリアを市内全域に拡大することも検討している。

シニア向けの有償おつたサービス

岩戸・猪方・駒井町にお住いの皆様

日常生活のちょっとした

お困りごと

- Care & Cure -

お手伝いします♪

A: お助けさん

ご自宅の「ちょっとした頼みごと」をお手伝いします。例えば…

「電球交換」・「お部屋の整理清掃」
「シャワー」・「家具の移動」
「お家の受取り」・「お散歩同行」
「スノーへの給水」…など

○価格：15分単位 ¥300-

B: お助けさんプラス(+)

おひとりの作業では困難になっている、力仕事 類

「敷地内の草むしり・簡単な樹木の剪定」・「大さめの家具の移動」・「お家の整理清掃」・「コインランドリー同行」…など

○価格：15分単位 ¥500-

C: あんしん見守り訪問

ご家族やご本人の依頼に基づき、「定期的な訪問による安否確認」を行います。チェックリストに沿って状況を把握し、ご希望があればご依頼者にメール報告致します。

○価格：1回の訪問 ¥300-
(1回と月2回以上から承ります)

D: 「空き家」定期メンテナンス

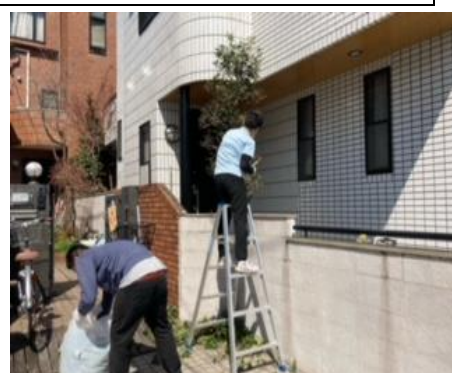
「空き家」または「空き家になりそうなお宅」の定期的なメンテナンスを請け負います。

▼例えば…

草むしり + 簡単な樹木の剪定 + 郵便物の転送 + 状況の報告 など

○価格：¥1000- から

「就労継続支援B型事業所(障害福祉事業所)」で働く方と、担当職員がペアになり、Care (ケア: お手伝い) と Cure (キア: 癒し・回復) をお届けします。



【こまえ苑エリア地域支援事例②】 岩戸・猪方・駒井町地域情報誌「いこいの便り」の発行

支援の内容・経過

新型コロナウイルス感染症の影響により、外出自粛による影響で身体的機能の低下や、他者との交流の機会が減り認知機能が低下したというような声がしばしば聞かれるようになっていた。

令和2年8月 コロナ禍での高齢者の現状やとじこもり防止について課題を感じ地域包括支援センターこまえ苑と情報交換を行ったところ、地域包括支援センターにおいても同様に様々な身体的・精神的な影響が出ているとのことだった。

そこで、こまえ苑エリア（岩戸・猪方・駒井町地域）における地域情報誌を合同で定期発行し、その紙面をきっかけに自宅内やコロナ対策を十分に図ったうえで活動を始めるきっかけになったらと考えた。紙面には自宅で健康的な生活を継続するための情報、身近な相談先等の福祉や健康に関する情報、既存の活動団体を紹介するコーナーなども設けることとした。

発行頻度、紙面の内容、ボリューム、役割分担などを決め、令和3年1月～定期発行する運びとなった。

概要

●令和2年度発行回数 1回

※創刊号は1月発行 ※今後4回/年定期発行予定

●令和2年度対応回数 延べ150回 ※打ち合わせ、連絡調整、取材対応、周知活動など

●発行部数 2,000部

今後の方向性・課題

●いこいの便りはエリア内の公的機関や一部店舗、事業所等で配布しているほか、民生・児童委員に協力をいただいて地域住民に届けていただいている。今後はメールマガジンやSNS等も検討し、情報を容易に入手できるよう工夫していきたい。

●取材を通じて、これまで関わりの少なかった方々や組織・団体とも新たに関係構築を図ることができた。また、地域の作品展のコーナーでは、写真や日本画などが好きな方からの掲載依頼もいただき、生きがい支援にもつながった。



【市内全域地域支援事例】ランドセルバンクの実施

支援の内容・経過

CSW が PTA 会長の一人と情報交換をしている中で、学用品のリユースの話題になった。PTA では子どもの成長に伴う買い替えのニーズがあり、各学校単位で学用品のリユースについて取り組んでいるところもあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で譲渡のイベントなどが開催できていない状況と伺った。

生活困窮状態の方が増えている現状から、このような時期だからこそ学用品をリユースする意味があるのではないかという話に至り、実施に向けて検討を重ねた。

学用品の中でも、ランドセルであれば学校単位で色や形の指定も無く、また比較的綺麗な状態で使い終わることも多いとのことで、試験的にランドセルのリユースに取り組むこととなった。

概要

企画名：ランドセルバンク 2021-22

内容：状態の良い使い終わったランドセルを募集し、令和 4 年 4 月に小学校入学予定のお子さんのいる世帯に対し無償で提供する。募集目標数は 30 個。

※令和 3 年 3 月～譲渡の受付開始

※令和 3 年 10 月～譲受けの受付開始予定

ランドセルバンク 2021-22

ランドセルのリユースははじめます

『ランドセルバンク』は、不要になった状態の良いランドセルを、必要とされる方に無償でおこなう仕組です。

譲っていただける方

① ホームページの専用フォームから申請

猫江市社会福祉協議会

② ランドセルの情報をリスト化しホームページにアップ。希望者とマッチングしたら社会福祉協議会でランドセルの受け渡しを行います。

欲しい方
(原則新 1 年生)

③ リストを見て希望するランドセルがあったら社会福祉協議会に連絡。社会福祉協議会の窓口で手続き後、受け取る。(無料)

※双方の個人情報がかからないよう配慮します

★お譲りいただける方へ★
- 譲渡、受け取りの際はランドセルの持ち主の氏名を記入してください。
- 希望者とマッチングするまでお待ちください。
- マッチング後は登録情報のうえ、社会福祉協議会へお申し込みください。
- 希望者にお知らせします。
- 希望者の数に限り、受付を終了しますので、予めご了承ください。

★希望される方へ★
- 2021 年 10 月以降の小学校入学予定のお子さんのいる世帯に限り、お申し込みください。
- 申し込みの際は社会福祉協議会の窓口で手続きの上、無料でお申し込みください。

社会福祉協議会 猫江市社会福祉協議会 コミュニティソーシャルワーカー
猫江市元和泉 2-35-1 おいどぎあセンター 1 階
☎ 03-3488-0313 (平日 8:30～17:00)
✉ csw@welfare.komae.org



今後の方向性・課題

令和 3 年 10 月～集まったランドセルの情報を公開し、必要とする方を募集する予定。

市広報、SNS やホームページのほか、市内の幼稚園、保育園、フードバンク猫江、こま YELL 等の協力もいただき、ランドセルを必要とする世帯に情報が届くよう工夫していく。

5.コミュニティソーシャルワーカーがかかわるその他の事業

< 福祉カレッジの開催 >

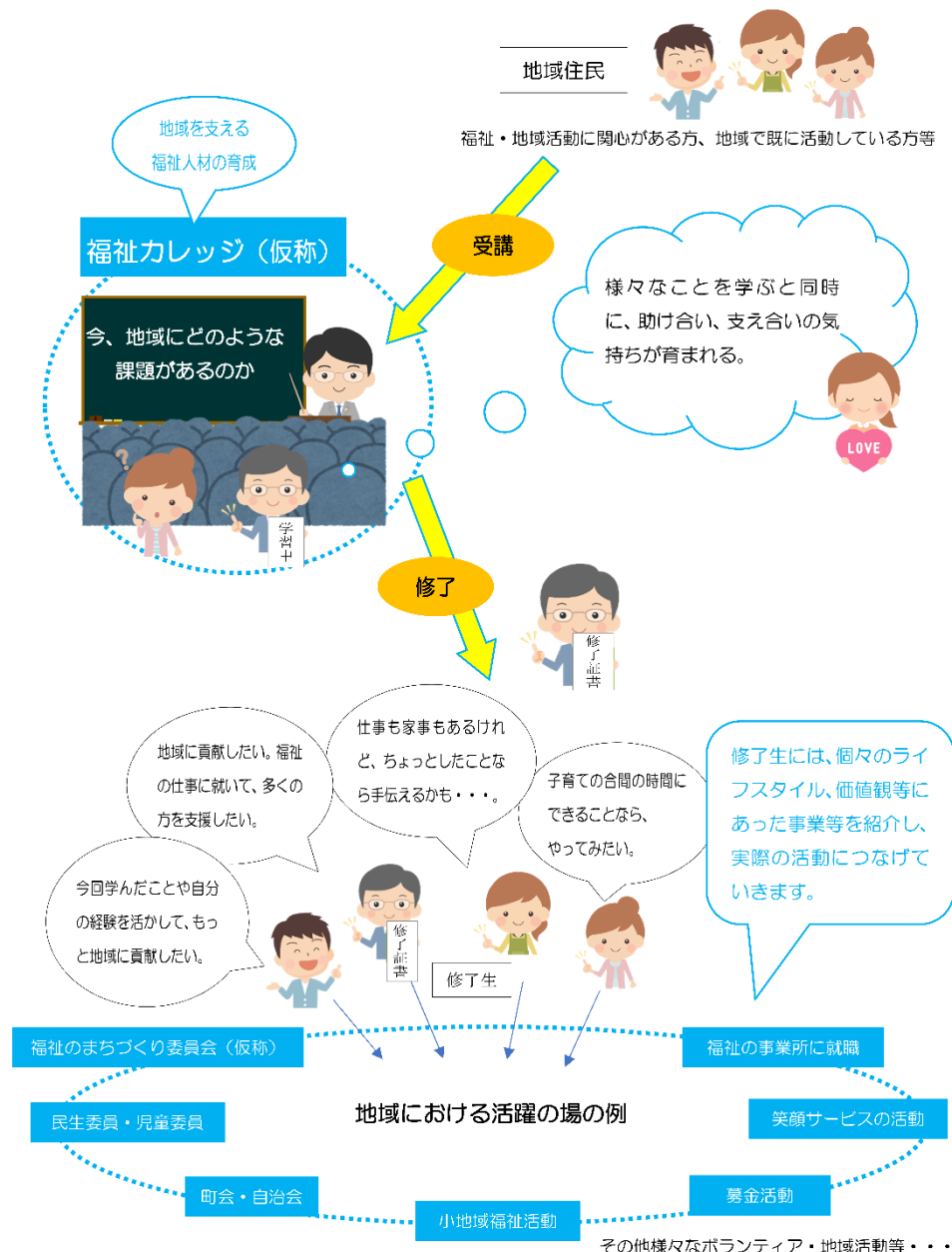
地域共生社会推進事業担当では、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることのできる地域共生社会の形成に向けて、地域住民を対象に、思いやりを持って共に支え合い、助け合うという「共に生きるまちづくり」について学習する機会をつくることを目的とした福祉カレッジを平成 30 年度から企画・運営しています。

カリキュラムは、制度の概論を講義するような内容だけではなく、市民活動で活躍されている方や当事者の方を講師に、体験談なども踏まえた実践的なものとしています。

令和 2 年度の福祉カレッジは、定員 15 名に対し 16 名の申し込みがあり、14 名が修了しました。受講生の平均年齢は 50.2 歳で、最年少が 33 歳、最高齢が 79 歳でした。

開催日数は新型コロナウイルス感染症の影響により、平成 31 年度の約半分の全 6 回としましたが、1 回あたりの講義時間は 2 時間から 3 時間に増やしました。

残念ながら新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、フィールドワーク(体験学習)は実施することができず、また緊急事態宣言期間中の一部講義が映像配信となってしまい、受講生同士の直接的な繋がりの機会を十分確保することができませんでしたが、3/13(土)には 1～3 期の修了生が一堂に会する修了生企画 One meet (ワン・ミート)を初開催し、活発な意見交換を行うことができました。



【福祉カレッジ 2020 カリキュラム】

回	日にち	内容	講師
1	11月14日	・オリエンテーション ・これからの地域福祉とまちづくり	・福祉カレッジ修了生 原田 治美氏(1期生) ・福祉カレッジ修了生 富田 美津子氏(2期生) ・狛江市社会福祉協議会 副会長 市川 衛氏 ・法政大学 教授 宮城 孝氏
2	11月28日	・高齢者の暮らしの変化 や地域活動について	・地域包括支援センターこまえ苑 センター長 小川 智之氏 ・介護経験者 ・特定非営利活動法人狛江共生の家 理事長 河西 信美氏
3	12月5日	・子育て支援の現状 ・生活困窮者への取り組み	・狛江市子ども家庭支援センター センター長 日下 美恵子氏 ・特定非営利活動法人フードバンク狛江 理事長 田中 妙子氏 ・ごはん+居場所おかえり 代表 宮川 裕子氏
4	12月12日	・障がいのある方の暮らし や仕事	・社会福祉法人もくば会八王子地域生活支援室高尾 高江洲 幸男氏 ・社会福祉法人足立邦栄会こまえ工房 濱 直人氏 ・特定非営利活動法人バリアフリーセンター・福祉ネット「ナナの家」 皆川 梓氏
5	1月9日	・空き家を活用した多世代 交流の居場所について ・ボランティア・市民活動 について ・コミュニティソーシャルワ ーカーの役割	・comarch 代表 梶川 朋氏 ・市民活動支援センターこまえくぼ 1234 斉藤 あや子 ・コミュニティソーシャルワーカー 野木 遼太
6	3月6日	・受講生による発表	

【福祉カレッジ 2020 の様子】



グループワークの様子



受講生の発表の様子(最終日グループ発表)

【修了後アンケートの結果より（抜粋）】

- ・福祉カレッジ受講前と受講後でご自身の中で変わった点について

変わった	7
どちらでもない	2
特に変わっていない	1

- ・「変わった」と答えた方は、どのような点で変化がありましたか

- ・毎回の講義が楽しかった。前より視野も広がり、もっと勉強したいと感じた。
- ・狛江のことをよく知ろうと考えるようになった。地域活動について関心が深まった。
- ・社協や地域包括支援センターなどの機関の役割について理解が深まって、何かあれば相談してみたいと考えるようになった。
- ・ボランティア活動に参加していきたい。
- ・狛江市の現状を知ることができた。地元で働きたいというモチベーションが上がった。

- ・受講前に目的としていた(達成したい)ことについて、達成できましたか。

達成度(%)とその理由

- 80% 各分野について、バランスよく学ぶことができ良かった。他の受講生とずっと話したかったが、修了生企画でのフォーラムもあり、受講終了後のつながりもできそう。
- 70% 現状の様々な分野の取組みを知ることができた。また、既存の支援の中で、どんな課題があるかを考えるきっかけを持つことができた。
- 80% 自分に何ができるか、チャレンジしようと思った。
- 80% 介護環境に関することについては、広報などで得る情報以上のものを得ることができた。年齢や仕事、生活条件の異なる方を少ない機会であったが知り合うことができたのはありがたかった。
- 60% 地域を知る意味では 100%だが、自分の求めるレベルには達していない。
- 40% 対面講座が少なくなってしまったのが残念。
- 80% 家族や自分への負担がそこまでなく、最後まで受講できた。
- 20% カレッジの 3 か月間でいろいろと実施方法や期間の変更がありモチベーションが下がってしまった。
- 100% 福祉を提供する側は、十分勉強になった。支援を必要とする側の声を少し聞きたかった。一番印象に残っているのは、高江洲氏の講義。狛江市を知るきっかけを与えてくれ、十分達成できた。
- 80% 狛江の現状について知ることはできたが、コロナにより後半は残念だった。来年度希望講座のみ追加受講ができると良い。

< 福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置 >

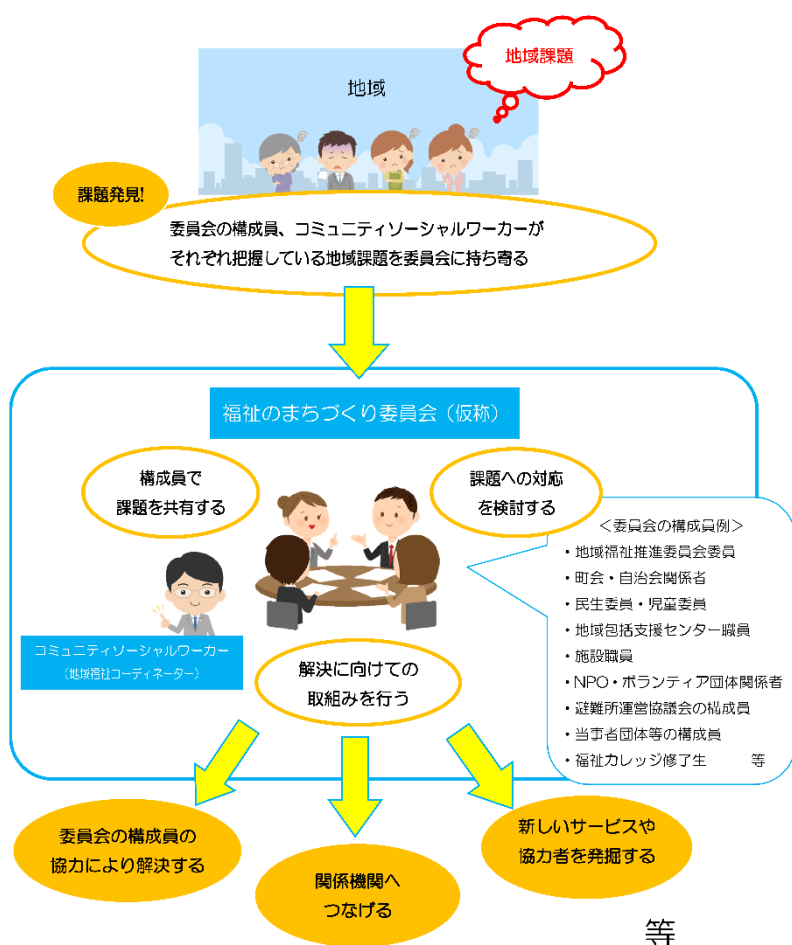
より身近な生活圏域の中で、地域住民や地域の様々な団体等が自ら地域の課題に気づき、共有し、ともにその解決に取り組む仕組みとして、福祉のまちづくり委員会（仮称。以下「委員会」という。）を地区ごとに段階的な設置を目指しています。委員会では、地域課題の共有とその解決に向けての取組みのほか、住民懇談会の企画・実施も行います。また、地域住民が地域での役割をイメージし、新たな協力者を呼び込みながら実施できるようになることを目指します。

委員会の土台となる福祉カレッジ修了生企画 One meet(ワン・ミート)を3月13日に開催しました。参加者は19名で、東京ボランティア・市民活動センターの佐藤新哉氏による「できることから」ツツと！今から始める地域活動」をテーマとした基調講演の後、参加者が居住エリア別に分かれての交流と地域診断のグループワークを行いました。

地域診断では地域の特徴を語り合い、診断で把握したそれぞれの地域の強みを生かした取組みや、課題の改善につながる取組みなどの話にも至りました。

今後こまえ苑エリアとこまえ正吉苑エリアにおいては、定期的なエリア集会(福祉のまちづくり委員会準備会)を開催していく事となりました。取り組む内容によって福祉カレッジの修了生のみならず、関係者にも関わっていただきながら進めていく事をイメージしています。

なお、あいとびあエリアについては参加者数自体が少なかったため、個々でのつながりは継続しつつ、エリア集会としての動きとしては次年度以降に目指していきます。



福祉カレッジ修了生企画
福祉カレッジ修了生集いの場

One meet (ワン・ミート)

つながり、語り、盛り上がり、自分の地域(エリア)を考えよう！

●One meet(ワン・ミート)とは…

福祉カレッジ修了生企画として、新たなつながり、新たな発見を目的とした企画です。福祉カレッジでアンケートを行った際に、「どんな柏江市になったら良いか」を考え、実際にあったアイデアを取り組みとしてやってみようか」とのご意見をいただきました。福祉のまちづくりを目指す当会としても、皆様とともに新たな仕組みづくりを考えていきたいと思っております。当日は他の自治体における地域活動事例の紹介に加え、お住いの地域(エリア)の課題についても考えて頂きます。

開催日 | 令和3年3月13日(土)

開催場所 | あいとびあセンター 2階 研修室 ABC

開催時間 | 13:00~16:00 (12:45~受付開始)

持ち物 | 筆記用具(サインペン含む)、マスク

参加費 無料

第1部 | できることからツツと！今から始める地域活動
＜講師＞ 東京ボランティア・市民活動支援センター 佐藤 新哉氏

第2部 | エリア別のワーク、交流
・居住エリアのテーブルに分かれ、そのエリア(地域)を語り合い、今後について考えよう

★企画開催に関する注意事項

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、以下の点に留意し、開催いたします。

- 当日に検温を実施いたします。
- 会場に換気を行います。
- 参加者には、マスクの着用及び手指消毒をお願いたします。
- 参加者にはフェイスシールドの配布を予定しています。
- こまめな換気を行うと共に、人と人との距離を確保します。
- 手洗いの徹底、会場にアルコール消毒機を設置します。

【問い合わせ・申し込み先】
社会福祉法人 柏江市社会福祉協議会
地域福祉課 地域総務係 地域共生社会推進事業担当
Tel. 03-3488-0313 E-mail: csw@welfare.kanagawa.org

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、多くの地域活動が休止され、当会においても事業の休止や縮小を余儀なくされました。

地域共生事業でも、会議や講座等を一部オンライン化し、感染拡大予防を図りながら重点取組みを進めることとなりました。

コミュニティソーシャルワーカーによる支援では、シニア向け地域情報誌の発行、学習支援マップの作成、シニアの困りごとへ障がいのある方が有償で支援する仕組みづくり、ランドセルのリユースの仕組みなど様々な地域支援、地域づくりを進めることができました。

福祉カレッジでは、講義回数の縮小や一部講義のオンライン配信などの工夫を行い、受講生の満足度が低下しないような配慮を行いました。

福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置では、福祉カレッジの修了生が一堂に参加する企画を実施し、基調講演と3つのエリアに分かれて地域診断のグループワークを行いました。その結果、こまえ苑エリアとこまえ正吉苑エリアでは、今後定期的にエリアミーティングを開催していくこととなりました。

感染症対策のため、制限が多い事業展開となりましたが、担当職員の工夫で多くの成果をあげることができた1年となりました。

特に福祉のまちづくり委員会（仮称）の設置では、多くの福祉カレッジ修了生が委員会の必要性を理解し、立ち上げに協力頂いたことを、感謝いたします。

令和2年度コミュニティソーシャルワーカー(CSW)活動報告書

令和3年(2021年)9月発行

社会福祉法人 狛江市社会福祉協議会

〒201-0013 東京都狛江市元和泉 2-35-1 あいとぴあセンター内

電話：03-3488-0313 FAX：03-3430-9779

E-MAIL csw@welfare.komae.org

